

令和2年度釧路管内スクールリーダー研修会を終えて

釧路教育局教育支援課

令和3年2月3日(水)に、釧路市生涯学習センターにおいて、令和2年度釧路管内スクールリーダー研修会を開催しました。

本研修会は、北海道における教員育成指標を踏まえ、教育改革の動向及び管理職や主幹教諭、指導主事等の新しい職務についての理解を深めるとともに、スクールリーダーとして主体的に学校運営に参画し、教育活動を改善・充実するための力量の向上を図ることを目的として開催し、釧路管内の小、中学校、高等学校の教員23名が参加しました。

本研修会の講話、協議内容等について紹介します。

講話「リーダーに求められる資質・能力」

- スクールリーダーには、教育課程をマネジメントする力が必要であり、学校の教育活動を、知・徳・体のバランスを取りながら、限られた時間の中で効果的に教育課程に位置付けていくかを意識することが大切である。
- 学校は、感動がある場所であり、自分の役割や立場を見定めながら、子どもたちのために感動ある学校づくりを進めることが大切である。
- リーダーに求められる役割は、状況とともに変化していくものであり、多様な状況に対応できる力を身に付けていく必要がある。



野村證券株式会社釧路支店
参与 大場和典様

パネルディスカッション「スクールリーダーに求められる役割と教員のライフステージについて」

パネリスト	釧路市立桜が丘中学校校長	青木 悟 様
	釧路町立富原小学校教頭	福田 由美子 様
	釧路市立景雲中学校主幹教諭	島田 桂子 様
	北海道釧路湖陵高等学校主幹教諭	佐藤 秀樹 様
オブザーバー	野村證券株式会社釧路支店参与	大場 和典 様

- 視点1 教職におけるキャリアステージを重ねることの意義
- 視点2 キャリアステージとライフステージのバランスの取り方



パネリスト・オブザーバーからの発言(協議の様子)



島田桂子
主幹教諭

- 教務主任として、教育課程を編成、計画的に実践していくことの重要性を実感し、難しさもあるがやりがいがあった。
- 教職員間で、取組のねらいや、目指す方向性を共有することが大切だと感じた。



青木悟校長

- 2校目で研究主任を経験し、学校の課題解決に向けて取り組むことの面白さを実感した。
- 自身の経験年数に応じて環境が変わっていく中で、不安を克服していくことがやりがいに繋がっていった。
- ミドルリーダーは、校長が示したビジョンを具現化することが求められており、企画力・実践力が必要であり、期待している。

- 今までキャリアステージに重きを置いてきた中で、今後、ライフステージとのバランスを取ることが大切だと感じている。
- 若い時に、色々な職務を経験できたことが、自分の成長に繋がっている。



佐藤秀樹
主幹教諭

- 職場の支援によって、育児休業の制度を活用し、子育ての喜びを味わうことが教職の充実につながっている。
- 教頭として、組織を動かすことに魅力とやりがいを感じている。今は子どもたちと教職員の活躍が大きな喜びになっている。



福田由美子教頭



大場和典
野村證券株式会社
釧路支店参与

- 自身の趣味を通して、状況に応じて、物事をマクロやミクロの目で捉えることの重要性に気付いたので、立場や見方を変えることが、教員に一層大切であると感じている。
- 民間企業は、一つの部門を突き詰めていくことが求められるが、教員には、学級経営力、授業力等、幅広い力が求められる。

【パネリスト・オブザーバーからのまとめ】

- 教師は人を育てる仕事である。それはキャリアステージを重ねても、児童生徒から教員へと対象が変わるだけであり、何かを育てることには常に喜びがある。
- 子育てを学校での指導に生かし、学校での指導を子育てに生かしていくことが、自身の成長にも繋がっていく。
- 自分ができることが増えていくことは、結果として、その成果が子どもたちに還元されていくことである。
- 我々はプロの教師であり、常に学び続ける存在であるとともに、必要な時には、周りに助けを求めることも大切である。